

## レンコン(普通)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型												
主な作業			圃施 場肥 準 備	植除水 え草管 付 け	除追 草肥 理	追水芽 肥管ま 理わ	追芽 肥ま わ	水 管 理				収 獲 出 荷

### 技術体系

#### 1 作型の特徴

気象条件を活用するごく一般的な栽培である。九州、四国及び太平洋沿岸の表日本一帯の産地は15℃以上の適正温度期間が長いので栽培適地となっている。

#### 2 適応地域

水田平坦地域

#### 3 栽培条件

##### (1) 温度

高温多日照を好み、生育適温は25～30℃とされ、経済栽培適地は15℃以上の平均気温が6か月以上25℃以上の高温期間が1、5ヶ月以上続く地域である。芽の伸長は地温が13℃以上になると開始する。適地帯でも6～8月に悪天候が続き日照が不足した場合は減収する。

##### (2) 土壌条件

有効土層は50 cm以上で砂礫の少ない土壌が良い。作土は、粘質、泥炭土や黒泥土がよい。又、作土下の硬さ(ち密度)が小さい方がよい。乾田から半乾田で、すき床層のあるような土壌は品質が悪く腐敗病が多くなる。表土の還元状態については全層が還元層であることが望ましい。

#### 4 施設装備

(1) レンコン掘取り機

(2) ポンプ

(3) レンコンボート

#### 5 経営目標

- |            |              |
|------------|--------------|
| (1) 収量     | 2 t / 10 a   |
| (2) 投下労働時間 | 220時間 / 10 a |
| (3) 所得率    | 45 %         |
| (4) 経営規模   | 150 a        |
- (家族労働力2人の場合)

### 栽培技術

#### 1 品種と特性

「金澄系品種」ハウス栽培の項参照

「支那種」

関東系(通称だるま)と中国系に分かれるが生育は旺盛で肥大性も強く、根茎は分岐少なく、長大で浅根性で肉質がよく晩生種で普通栽培に適する。

関東系は極晩生種で根茎の肥大性は強く、丸みを帯び短大で多収種である。

中国系は晩生種で根茎太く、扁平で各節が角張り、肉が厚い良質種である。

「芙蓉種」ハウス栽培の項参照

「松橋種」平成10年に品種登録された。根茎の分枝が多い露地栽培に適した品種である。

### 「備中種」

晩生種では普通栽培から促成栽培まで幅広く使われている。

根茎の分岐は比較的多く、浅根で肥大よく、外皮は褐色をおび肉厚く粉質性の品種である。

## 2 植え付け

植え付け時期は4月下旬頃から行い、栽培密度は畦幅2m株間1.2m10a当たり420株程度とする。種レンコンは10a当たり300kg程度が必要である。

植え付け前に堆肥を全面に施し深耕するとともに石灰窒素を散布し湛水する。

種レンコンは分枝レンコンを付けたまま、400g程度（3節もの）の中型レンコンを使用する。

植え付けをする日は温暖な日を選ぶ。

## 3 施肥

生育期間が長いので、肥料切れを起こさないようにする。

施肥量は10aあたり基肥を60%、追肥を40%として、5月下旬頃から止め葉が出る頃までの間に、3～4回に分けて施肥する。一度に多量に施肥すると肥焼け現象を起こし生育が悪くなるので注意する。

施肥例	(kg/10a)		
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
基 肥	20	20	20
追 肥	5	0	5
合 計	25	20	25

※石灰窒素（100～150kg）

堆肥 2,000kg

## 4 一般管理

生育初期は水深10cmとし、生育後半は7cmとする。夏期高温時は水温30℃以下に保ち、腐敗病の発生を防止する。

植え付け後、茎葉が繁茂するまでは除草を行う。

浮草の発生は水温の上昇を妨げるので取り除く。

8～9月ころに葉が損傷すればレンコンの着生が著しく阻害される全葉が損傷し黄変枯死すれば50～60%の減収となる。

レンコンの肥大期である8月は常時湛水し落水しない。

## 5 収穫

9月上旬から収穫を始める。収穫前に地上部を刈り取り、灌水して酸素の地下部への供給を断ち、褐色の第二鉄を第一鉄に変えてやればしぼ抜きができ、レンコンが白くなり品質が向上する。レンコンの存在位置を目測し、折れたり、傷つけないよう注意して掘り取る。

収穫したものは乾燥しないように、こも等で覆っておき出荷する。